

活動記録書

開催日： 令和5年5月4日(木) 天候 晴	開催テーマ： 三浦一族ゆかりの寺を巡る
開催場所： 横須賀市	記入者： 横山美智男
参加人数： 会員 31名 ビジター 0名 計 31名	
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）： コース：衣笠城址バス停(集合)～満昌寺（宝物殿拝観）～近殿神社～薬王寺跡～青雲寺（昇堂拝観）～腹切り松公園(解散)</p> <p>GW 真ただ中、今年度最初の探訪は横須賀市衣笠の三浦一族ゆかりの寺を巡る。衣笠城址バス停に集合、挨拶を済ませ満昌寺に向かう。</p> <p>満昌寺は源頼朝が三浦義明を弔うために建立したと伝えられている。臨済宗建長寺派、本尊は華嚴釈迦如来像。本堂裏の宝物殿にて衣冠束帯姿の三浦大助義明座像(国重文)を拝観する。宝物殿には薬王寺跡のやぐらにあった石造双式板碑も安置されていた。宝物殿裏には伝三浦義明廟所があり、宝篋印塔が義明の墓で五輪塔が妻のものとされている。また 12 年に一度の三浦半島一斉の地藏尊御開帳の日に当たり一般の参拝客も何人かいた。</p> <p>住宅街を抜けて近殿(ちかた)神社へ。三浦氏 6 代三浦義村が祭神。従弟の北条義時とともに創生期の鎌倉幕府の基礎を築いた人物で昨年大河ドラマでも活躍した。義村の木像が安置されているが暗くて良く見えない。</p> <p>数分歩き、住宅の間の路地を抜けると薬王寺跡に出る。和田義盛が父義宗や叔父義澄の菩提を弔うため創建したものと伝えられるが、明治 8 年（1876 年）頃廃寺となった。今は三浦義澄の墓所とされる五輪塔が残るのみ。</p> <p>県道を渡り坂道の最後に階段を上がると、青雲寺山門に到着。青雲寺は臨済宗円覚寺派、昇堂し拝観する。3代三浦義継が父為継の供養のため建立し、毘沙門天立像を本尊にしたと伝わる。和田合戦の際に姿を現して、敵の矢を受けたと伝えられ、「箭請（やうけ）毘沙門天」と呼ばれている。現在の本尊、滝見観音(木造宝冠観音菩薩座像)は近く円通寺(廃寺)から江戸時代に遷された、片膝を立てた半跏像で中国南宋時代の造立とされている。本堂裏には円通寺のやぐらから移された三浦為通、為継、義継の三代の墓と伝わる五輪塔がある。近くに大きな板碑「石造板碑文永八年在銘」がある。板碑の銘文が歴史史料と合致する事例で重要な歴史資料とされている。</p> <p>最後は腹切り松公園へ、治承 4 年（1180 年）、源頼朝の拳兵に加わった三浦氏の当主、三浦義明は衣笠城合戦に敗れこのあたりにあった松の下で自害したと伝わる。大矢部の里人たちは三浦大介腹切りの松として敬い、由来を伝えてきた。現在では腹切り松公園として一般に開放され、公園の一角には石碑や案内板が建てられている。</p> <p>腹切り松公園で解散挨拶をして、近くの大矢部三丁目バス停から北久里浜駅を経由して帰途につく。</p>	
参加者の状況・意見など 天候にも恵まれて絶好の探訪日和となった。8 年ぶりの横須賀方面の探訪であったが、朝のバス停集合も混乱なく、また進行もスムーズで予定時間内に収まった。コロナの行政規制も緩和され、二寺で昇堂し貴重な仏像など間近に拝観できて良かった。解散後の昼食も心配していたが、幸い北久里浜でファミレスが空いていて 20 人ほどで反省会を行った。	
次回の予定： テーマ 「あじさいの道」 令和 5 年 6 月 1 日（木）10 時 シーサイドライン海の公園柴口駅集合	